

「SPODフォーラム」四国地区各県持ち回り開催について（案）

令和2年 月 日
ネットワークコア運営協議会決定

1 SPODフォーラム持ち回りスケジュール

回	開催年度	開催県（当番大学等）	社会教育主事講習 当番校
1～3	平成21（2009）年度 ～23（2011）年度	愛媛県（愛媛大学）	—
4	平成24（2012）年度	徳島県（徳島大学）	愛媛大学
5	平成25（2013）年度	愛媛県（愛媛大学）	高知大学
6	平成26（2014）年度	高知県（高知大学・県内加盟大学等）	鳴門教育大学
7	平成27（2015）年度	愛媛県（愛媛大学・県内加盟大学等）	香川大学
8	平成28（2016）年度	愛媛県（愛媛大学・県内加盟大学等）	愛媛大学
9	平成29（2017）年度	徳島県（徳島大学・県内加盟大学等）	高知大学
10	平成30（2018）年度	香川県（香川大学・県内加盟大学等）	鳴門教育大学
11	令和 元（2019）年度	愛媛県（愛媛大学・県内加盟大学等）	香川大学
12	令和 2（2020）年度	高知県（高知大学・県内加盟大学等） 中止	愛媛大学
12	令和 3（2021）年度	愛媛県（愛媛大学・県内加盟大学等） 高知県（高知大学・県内加盟大学等）	（高知県）
13	令和 4（2022）年度	香川県（香川大学・県内加盟大学等） 愛媛県（愛媛大学・県内加盟大学等）	（徳島県）
14	令和 5（2023）年度	愛媛県（愛媛大学・県内加盟大学等）	（香川県）
15	令和 6（2024）年度	徳島県（徳島大学・県内加盟大学等） 香川県（香川大学・県内加盟大学等）	（愛媛県）
16	令和 7（2025）年度	愛媛県（愛媛大学・県内加盟大学等） 徳島県（徳島大学・県内加盟大学等）	（高知県）

※ 社会教育主事講習の当番校とフォーラムの当番校が重なる場合には、会場及び運営スタッフの都合上、原則翌年度の開催大学と入れ替えて開催する。ただし、当該大学が同一年度に両方開催可能な場合は、この限りではない。

2 SPODフォーラム実施体制等

(1) 開催県内大学等との協働実施

当番大学及び開催県内大学等は、フォーラムの実施体制を強化するため、連携・

協力し、フォーラムの開催準備、会場運営等を協働で行う。

(2) コア校教職員協働による会場運営

フォーラム当日の会場運営は、当番大学以外のコア校の教職員（1～2名程度）及びSPOD事務局が当番大学と協働で行う。

令和2年度SPOD講師派遣プログラム実施状況一覧

更新日：2020/6/17

大学等名	プログラム名	対象	日程	講師所属校	講師名	実施形態
松山東雲女子大学・松山東雲短期大学	カリキュラムの編成の原理	学内	2020年6月18日（木）15:00～17:00	愛媛大学	中井俊樹	遠隔 (非同期型)
弓削商船高等専門学校	組織の力を引き出す観察力養成講座	学内	2020年7月30日（木）15:00～16:00	愛媛大学	村田晋也	
香川県立保健医療大学	基礎から学ぶ学習評価法	SPOD加盟校	2020年8月6日（木）13:00～15:00	香川大学	佐藤慶太	
高松大学・高松短期大学	ティーチング・ポートフォリオ入門～教育実践のリフレクション～		2020年9月1日（火）13:00～15:00	愛媛大学	仲道雅輝	
香川大学	アクティブラーニング実践（だれでもできる！グループワークのためのファシリテーション）	SPOD加盟校	2020年9月23日（水）13:00～15:00	愛媛大学	竹中喜一	
岡山理科大学獣医学部	学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは？	学内	2020年9月25日（金）15:00～16:30	愛媛大学	仲道雅輝	
今治明德短期大学	高等教育機関の職員に必要な能力と専門性	学内	2020年10月1日（木）14:30～16:00	愛媛大学	吉田一恵	
四国大学・四国大学短期大学部	高等教育機関の職員に必要な能力と専門性	SPOD加盟校	2020年10月14日（水）15:30～17:00	愛媛大学	吉田一恵	
徳島大学	発達障害のある学生に配慮した授業づくり	SPOD加盟校	2020年10月15日（木）16:20～17:50	高知大学	杉田郁代	
高知大学	危機管理ケーススタディによる、学生支援体制の構築	SPOD加盟校	2020年10月21日（水）14:00～17:00	阿南工業高等 専門学校	坪井泰士	
香川高等専門学校	事例から考えるハラスメント	SPOD加盟校	2020年11月19日（木）13:30～16:00	愛媛大学	吉田一恵	
愛媛大学	フィードバック入門（3時間）		2020年12月9日（水）13:30～	高知大学	俣野秀典	
鳴門教育大学	事例から考えるハラスメント	学内	2020年12月18日（金）午後～	愛媛大学	吉田一恵	
愛媛県立医療技術大学	発達障害のある学生に配慮した授業づくり	学内	2021年2月10日（水）16:20～17:50	愛媛大学	三浦優生	
松山大学・松山短期大学	カリキュラム評価の基礎知識	学内	延期	愛媛大学	竹中喜一	
新居浜工業高等専門学校	学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは？	学内	延期	高知大学	塩崎俊彦	
人間環境大学松山看護学部	3つのポリシー（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）の開発と一貫性構築手法	学内	延期	愛媛大学	小林直人	
阿南工業高等専門学校	障がいをもつ学生の理解と支援	学内	延期	愛媛大学	野本ひさ	
高知学園大学・高知学園短期大学・高知リハビリテーション専門職大学	やってみよう！テキストマイニング	SPOD加盟校	延期	徳島大学	塩川奈々美	
徳島工業短期大学	受講生が楽しく集中して参加する授業の雰囲気作り	SPOD加盟校	延期	愛媛大学	仲道雅輝	
高知工業高等専門学校	後輩の成長を促すコーチング	SPOD加盟校	調整中	愛媛大学	村田晋也	
香川短期大学	教学IR入門	SPOD加盟校	保留	愛媛大学	竹中喜一	
聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部	ティーチング・ポートフォリオ入門～教育実践のリフレクション～	学内	保留	愛媛大学	小林直人	
高知県立大学・高知工科大学	調整中	調整中				
徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部	職員のための企画力養成講座			愛媛大学	仲道雅輝	

事業評価シート①

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（ネットワーク略称＝SPOD）」の今後の事業推進に役立てるため、令和元年度SPOD実績報告書や令和元年度中に実施した視察等をもとに御意見ををお願いします。

・11周年目の新たな幕開けに相応しく、SPOD フォーラムでは過去最高の参加者数を確保できた点は高く評価される。高等教育に関わる全国イベントとして定着した感がある。将来構想にある「国内最高の教職員研修の機会」の一つになったことは間違いない。また単にイベントだけで終わる他の取組みとは異なり、日常的に活動が継続されている地域拠点型の大学間連携モデルとしても常に名前が挙がる存在になっている。これまで運営されてきたSPOD関係者、とりわけバックヤードを担う職員の貢献は高く評価したい。

・SD 専門部会が、大学行政管理学会において成果検証に関わる発表を行ったことは高く評価される。このようにエビデンスベースで議論を進めるカルチャーを醸成していくことに意味がある。この点で、次世代リーダー研修の成果については、SPOD内だけではなく、学会発表を行うなどして、広く情報を発信すべきである。というのも、これだけの研修が行われていることに対する認知度はさほど高くない。実施例ではなく、成果であるレポート集をもっと発信できる方法を考えると良いのではないかと。

・SDに比べると、FDに関する情報発信や成果検証が少ない。SPODのFDプログラムは、質の高いものであるため、成果は必ず出ているはずである。FDについても情報発信につとめていただきたい。また、外部団体から認証を受けるなど、その質を広く知ってもらうことも検討していただきたい。

・これまでの10周年の歩みを記録して書籍にするなど、レガシー継承のための取組みにも着手してはどうか。毎回の報告書をベースにして記述すれば、あまり負担をかけずに刊行できるようなと思う。

・毎回指摘していることだが、四国という地域を意識した活動がさらに展開できるとよい。より一層の社学連携を強化していく必要がある。大学関係者と地元産業界あるいは地元高校教員との交流の場を四国レベルで創ったり、SPOD フォーラムのシンポのパネリストにも企業人や高校教員を招聘するなどアイディアかと思う。

事業評価シート②

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（ネットワーク略称＝SPOD）」の今後の事業推進に役立てるため、令和元年度SPOD実績報告書や令和元年度中に実施した視察等をもとに御意見ををお願いします。

■あらためてSPODフォーラム2019の視察を振り返って

・延べ参加者数も初回（2009年度）の約980名から、本年度の1,734名と着実に伸びており、着実に全国区の事業に成長している。にもかかわらず、事後全体アンケートにおいて99%の非常に高い満足度を得ていることは特筆に値する。

・全プログラム数（40）の35%にあたる14プログラムが新規プログラムであり、事後アンケートにて集約された開講希望プログラムや意見を、案配よくプログラムに反映されていることが窺える。

・関連して、「参加者が数年をかけて一通りのプログラムを受講できる」とするプログラム構成の基本方針も支持するところです。

・全体アンケート集計結果（規模別）によると、大学規模1,000名未満の86%がSPOD加盟校からの参加であるが、これら規模の小さな大学のSPODフォーラムに対する全体的な満足度が規模の大きな大学に比べると低くなっている。この点について、掘り下げた検証を行うと、規模の小さな私立大学におけるSPODの課題が浮き彫りになるのではないかと。

・例年、所属先からも2～3名の職員がSPODフォーラムに参加するので、該当者に感想等をヒアリングしているが、本年度は担当するイベントの日程（準備日8月30日、会期8月31日、9月1日）と近接したため、職員の参加がかなわなかった。私自身も前二日間の参加となった。とは言え、シンポジウム、情報交換会以外に、ポスターセッションと希望する4つの個別プログラムに参加できたとし、会期を通しての参加でなくとも、十二分に満足できるプログラム構成であると感じた。

・SPODフォーラムは基本的に大学教職員の集まりではあるが、例えば、（内容に応じて）ポスターセッションや、（企画に応じて）情報交換会の場に、何がしかの形で教育の受け手である学生が参画すると盛り上がると思います。

・今回、ポスターセッションのコアタイムにあっては、時間を区切る等して多くの発表をのぞけたり、全体受付会場横にSPOD加盟校のFD・SD関連情報等の展示スペースが設けられる等、細かな工夫も効果的であった。

■その他、SPODの取組に対する全体的な意見

＜SPOD内講師派遣プログラム＞

・複数大学の相互参加や、近隣開催校への参加、そして複数回開講の希望校も増加しており、本プログラムの新たな進展を感じることができる。

<SPOD-SDC>について

・本年度新たに4大学7名が認定され、うち2大学（2名）にとっては初めての資格認定者授与校となる。加盟大学のSDの自立的運営に向けて、資格認定者の所属機関数も着実な広がりを見せている。

<SPODウェブサイトによる情報提供について>

・コア校委員で構成されるSPODネットワークコア運営協議会における報告・審議内容については、配布資料とともに公開されており、加盟校に対する運営の透明性確保と、SPOD外部からの情報取得にも寄与している。

以上

事業評価シート③

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（ネットワーク略称＝SPOD）」の今後の事業推進に役立てるため、令和元年度SPOD実績報告書や令和元年度中に実施した視察等をもとに御意見ををお願いします

はじめに

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（以下SPODと称す）の2019年度事業に関して、実績報告書並びにフォーラム視察を通しての所感を述べさせていただきます。

まず、昨年度に創設10周年を迎えられ、今年度から新たな10年の第一歩を踏み出された活動に敬意を表します。本事業は、現在加盟校数35校、多種多様な研修プログラムの受講者は2344名超、8月に行われたフォーラムでは40講座に延べ1734名が参加されており、事業としての完成度や規模においても国内随一の取り組みとなっていると考えます。

1. FD・SD共通

① SPODフォーラム

今年度で11回目を迎えるSPODフォーラムは、2019年8月28日(水)～30日(金)の3日間、愛媛大学にて開催された。今年度は40プログラム(新規15)を実施、535名(延べ1734名)が受講している。プログラムの内容はFD・SDの偏りなく、SDG's、社会連携、プロジェクトなど時世に即したプログラムも取り入れている。また、受講者の内訳は、教員796名、職員933名(SPOD会員746名、非会員983名)となっており、本フォーラムを国内最高の教職員研修の機会にするという当初の目標に近づきつつあると評価できる。課題としては、ニーズの少ない科目の統廃合等、より良いプログラム構成やそれに基づくコスト(人件費)の問題が挙げられる。

② SPOD内講師派遣

加盟校が希望する研修プログラムについて、SPODから担当講師を1法人あたり年1回派遣する事業では、今年度講師11名を25機関に派遣している。受講者総数は893名となっていること、複数回の実施希望が増えてきていることから、地域のFD・SD活動への貢献が見られる。各大学が自前の講師でFD・SDを実施することが困難な状況の中、各大学の方針に即した講師を派遣できるシステムが身近に存在する意義は大きい。

③ FD・SDに関する調査研究

今年度、SD専門部会において、SPODの中心的プログラム「次世代リーダー養成ゼミナール」の修了生について調査研究を行っている。また、その結果について9月に行われた大学行政管理学会において発表しており、こうした取り組みは当プログラム改善に大きな効果があったものと思料する。加えて、39%が管理職になっていること、管理職でない者も「サーバントリーダーシップ」を発揮している点、派遣大学は将来のリーダー候補を送り込み、受講生は修了後、自大学での研修講師を行っている点等から、大学での貢献度が高いプログラムであることが実証されている。

④ SPOD将来構想

組織の長期目標を構築し、その目標の達成のための取り組みを着実に実施されている。個別では、前述の通り、国内最高の教職員研修会の機会にするための取り組みを実施することによって一定の評価を得るなど、今後も継続した取り組みが期待できる。課題としては、発展し巨大化する組織、プログラムの運営について、安定した財政基盤について負担金収入拡大、補助金収入拡大のなどの取り組みが必要であると考えます。

2. FD事業

コア校間で標準化された5つのプログラム（授業設計やシラバスの作成法など）において、2019年度は加盟校14校59名の教員が参加（全員が「満足」と回答）しており、プログラムへの高い評価が示されている。特に、人材のバリエーションが豊富とは言い難い地方私大においては、ことさらに実施が困難なプログラムであり、四国のみならず中国地方にも広く展開する事が望まれる。

SDを含めた各種FDプログラムは51プログラム、遠隔授業も含めて671名が参加するなど、非常に充実している。また、大学院設置基準改定にいち早く対応する「プレFD」と言った先進的な取り組みも多い。また、実施された各プログラムはシラバスが用意されており、講義方法、達成目標等、受講にあたって必要となる情報を明確にしており、参加者のニーズに沿ったものであることも含めて、満足度が高い要因となっていると思われる。

3. SD事業

2019年度に実施された「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（レベルⅠ～Ⅲ）」の研修には、加盟校から18校延べ180名の職員が参加。別途、職務別能力開発研修としてSPODフォーラムにスタッフポートフォリオ作成ワークショップなどのプログラムを提供し、幅広いニーズに対応している。

次世代リーダー養成プログラム（2年間で8回実施）は、11名が参加している。プログラム修了生は、SPODのスタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの資格を取得するなど活躍しており、フォーラムと合わせてSD事業では特筆すべき事業であると考えられる。加えて、基礎力養成プログラムやフォーラムの講師を次世代リーダー養成プログラムの修了生18名が務めており、このことから、当事業における職員養成のサイクルが確立されつつある事が示されている。

4. SPOD運営

35校となった加盟校の運営について、ネットワークコア協議会を7回、FD専門部会を1回、SD専門部会を2回、SPOD総会、分科会の実施等、組織的な運営体制が構築されている。

以下では、定量的指標達成度一覧に基づき述べる。共通事業、FD、SD事業について、概ねプログラム数、満足度は高く（5段階評価の5）、事業の充実度が示されている。その一方で参加者数、参加校数は一部で評価1となっているが、目標値が加盟校全教職員対象である点や、経年変化では、上昇もしくは維持されている項目が多くなっている。また、FD事業におけるティーチングポートフォリオについては、事業そのものが小規模（メンターが必要）かつ長期プログラムであるため、全てにおいて達成度が低評価となっているが、今後はニーズが高まるプログラムとなることが予測されるため、継続して実施いただく事を期待したい。

今後さらに競争が激化する我が国の大学において、大学教職員の育成は、自己啓発やOJTを中心に行う（自分の道は自分で切り開け！能力開発は自前で！）という、個々人に依存する旧態依然とした方法から早々に脱却しなければなりません。したがって、自大学で育成すべき人材（どのようなようになってほしいか、どのような能力を身につけてほしいか）について、組織的かつ計画的な取り組みが求められます。そうした中で、11年に渡るSPOD事業の蓄積は、四国地区の大学に「自大学の教育力を高めることで、自らの価値を高める」という理念が根付いている根拠となると言えるでしょう。

大学が果たすべき重要なミッションの一つに「学生の成長」が挙げられます。教育機関の構成員として、まず教職員が自らを成長させようとする姿勢が大学全体の成長の機運を高め、そうした成長の機運こそが学生の成長に重要なファクトとなりうると考えます。こうした新しい教育のアプローチを世に示し、SPOD事業の社会的価値をさらに高めていく事を期待します。

令和元年度 S P O D 事業評価委員会委員による評価結果及び今後の対応について（案）

■令和元年度事業評価委員会委員による評価について

「令和元年度 S P O D 事業の評価について」

【趣旨】

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（S P O D）」の事業運営に対し、令和元年度 S P O D 実績報告書や令和元年度中に実施した視察等をもとに、各 S P O D 事業評価委員会委員から個別の内容について書面で意見をいただき、今後の事業推進に役立てる。

■令和元年度事業評価委員会からの指摘事項のポイント（案）

1. FD

【指摘事項】

SD に比べると、FD に関する情報発信や成果検証が少ない。FD についても情報発信につとめていただきたい。また、外部団体から認証を受けるなど、その質を広く知ってもらうことも検討していただきたい。

【対応】

【対応予定】SPOD で実施する新任教員研修について、研修のさらなる質向上、及び SPOD 内外に対して質が保証された研修であることを発信していくために、日本高等教育開発協会(JAED)の認証を受けるべく準備を進めており、早ければ 2020 年度内に認証を受ける予定である。

【指摘事項】

コア校間で標準化された 5 つのプログラム（授業設計やシラバスの作成法など）において、2019 年度は加盟校 14 校 59 名の教員が参加（全員が「満足」と回答）しており、プログラムへの高い評価が示されている。特に、人材のバリエーションが豊富とは言い難い地方私大においては、ことさらに実施が困難なプログラムであり、四国のみならず中国地方にも広く展開する事が望まれる。

【対応】

【対応済】本新任教員研修は各コア校が主催するプログラムのどれを受講しても同様の効果を得られるよう、SPOD 内でプログラムを標準化しており、加盟校外からの参加も可能としている。実際に、令和元年度には九州地方の 2 大学から参加があるなど、私立大学を含める加盟校外の認知度も高まっている。今後、この取り組みをさらに広めるための情報発信等を検討していく。

2. SD

【指摘事項】

SD 専門部会が、大学行政管理学会において成果検証に関わる発表を行ったことは高く評価される。このようにエビデンスベースで議論を進めるカルチャーを醸成していくことに意味がある。この点で、次世代リーダー研修の成果については、SPOD 内だけではなく、学会発表を行うなどして、広く情報を発信すべきである。というのも、これだけの研修が行われていることに対する認知度はさほど高くない。実施例ではなく、成果であるレポート集をもっと発信できる方法を考えると良いのではないか。

【対応】

【対応済】毎年度、研修修了時に「次世代リーダー養成ゼミナールプロジェクト実践ジャーナル」を作成しており、昨年度末には第9号を発刊しSPODホームページへの掲載を行った。また、平成27年度から毎年、大学行政管理学会において次世代リーダー養成ゼミナールの多様な実践事例とその成果を担当講師（教職）、修了生自らが協働で継続して発表してきた。特に、令和元年度は、修了生が職務においてどのようにリーダーシップを発揮しているのかについて、同ゼミナール担当講師と事務局職員が成果検証に関わる発表を行ったが、今年度はさらなる分析を行うとともに、「大学教育実践ジャーナル（愛媛大学教育・学生支援機構）」への投稿を予定しており、今後も講師、事務局、修了生自らが、更なる情報発信の拡大に向けて検討を続ける。

3. SPOD フォーラム

【指摘事項】

全体アンケート集計結果（規模別）によると、大学規模1,000名未満の86%がSPOD加盟校からの参加であるが、これら規模の小さな大学のSPODフォーラムに対する全体的な満足度が規模の大きな大学に比べると低くなっている。この点について、掘り下げた検証を行うと、規模の小さな私立大学におけるSPODの課題が浮き彫りになるのではないかと。

【対応】

【対応予定】アンケートをSPOD加盟校内外で比較したところ、加盟校外の参加者の方が「SPODフォーラムは全体的に満足できる内容であった」や「業務や教育に積極的に取り組んでいきたいと思うようになった」といった項目に対し、「そう思う」と回答した割合が高いことが分かった。大学規模1,000名未満の参加者はSPOD加盟校内が大半を占めているため、満足度が比較的低いという結果となったものと思われる。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた満足度としては、大学の規模やSPOD加盟校内外による違いは見られないものの、加盟校内の教職員の満足度をより高めるため、アンケート等を基に見直しを行っていく。

【指摘事項】

SPODフォーラムは基本的に大学教職員の集まりではあるが、例えば、（内容に応じて）ポスターセッションや、（企画に応じて）情報交換会の場に、何がしかの形で教育の受け手である学生が参画すると盛り上がるのではないかと。

【対応】

【課題】SPODフォーラムは教職員の能力開発のためのものであり、FDプログラムコンテンツ内には学生に非公開の内容もあることや、学生にヒットするプログラムを作成するとなるとSPOD（フォーラム）の方向性から離れていくのではないかと懸念がある。一方で、新たな視点を加えるという観点から、将来教職員になる意思がある学生や修士・博士の学生に限って参加を認めることや、陪席として参加を認めること等、教職員の受講希望者がこれまで通り参加でき、かつ受講者の裾野をさらに広げられる方法を引き続き検討していく。

【指摘事項】

ニーズの少ない科目の統廃合等、より良いプログラム構成やそれに基づくコスト（人件費）の問題が挙げられる。

【対応】

【対応済】SPODフォーラムでは、毎年参加者へのアンケートを実施し、希望するプログラムについて意見を募っている。それに基づき新規プログラムの開講や、ニーズの高いプログラムについては複数年での連続開講を試みるなど、より良いプログラム構成となるよう検討を行っている。

4. 組織運営

【指摘事項】

これまでの10周年の歩みを記録して書籍にするなど、レガシー継承のための取組みにも着手してはどうか。毎回の報告書をベースにして記述すれば、あまり負荷をかけずに刊行できるようにも思う。

【対応】

【対応済】今年度は新型コロナウイルス感染対策のため、組織的な活動に大きな制約があり、緊急の対応を優先する。なお2018年度に発足後の10年間を振り返った情報提供をした。

小林直人：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）～10年間の活動と課題～
IDE現代の高等教育，2018年11月号，No. 605:51-55，2018

【指摘事項】

四国という地域を意識した活動がさらに展開できるとよい。より一層の社学連携を強化していく必要がある。大学関係者と地元産業界あるいは地元高校教員との交流の場を四国レベルで創ったり、SPODフォーラムのシンポのパネリストにも企業人や高校教員を招聘するなどもアイデアかと思う。

【対応】

【対応予定】教育・研究等により地域の発展に貢献するために、社学連携をさらに推進する意義は大きく、様々な方策を引き続き検討していく。それを担う人材育成の取組の一つとして、「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修」における中堅職員を対象としたレベルⅡでは、研修科目「高等教育論」において「2033年の四国の高等教育機関」をテーマの1つとして取り上げ、高等教育の歴史や現状を学んだ上で将来像について考える機会を設けた。今後も、10年、20年先を見据え、政策動向に即応できる職員を育成するためにプログラムを順次改良していく。

【指摘事項】

発展し巨大化する組織、プログラムの運営について、安定した財政基盤について負担金収入拡大、補助金収入拡大のなどの取り組みが必要であると考えている。

【対応】

【対応済】現在は各大学が連携し、加盟校の教職員が本務として協力的に取り組んでいることにより、少ない経費で安定した運営ができています。また、おおよその収入が確定するのはSPODフォーラム終了時であるが、SPODフォーラムが中止になった場合にも運営できるようシミュレーションを行っており、実際に令和2年度の中止についても必要経費を再計算することにより運営上の支障は発生しない見込みとなっている。

令和 2 年度 第 34 回 愛媛大学授業デザインワークショップ実施要項

1. 主 催

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク (SPOD)
愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 (教職員能力開発拠点)

2. 期 日

令和 2 年 7 月 4 日 (土) ~ 24 日 (金) オンラインでの開催
※ 7 月 4 日 (土) 10:00~11:00 遠隔同期型のオリエンテーション (受講者原則参加)
(オンラインのミーティングツールを利用します)
※ 課題の提出期日については、以下のスケジュールをご参照ください。

3. 方 法

愛媛大学 Moodle3.5 (学習管理システム) を用いて開催します (対面での実施はありません)

4. 参加対象者(一度参加した者は除く)

- 1) 一昨年度から今年度にかけて大学等に採用された、授業担当または担当予定の教員 (授業担当経験 5 年以上を除く)
- 2) 愛媛大学テニユア育成教員
- 3) その他参加を希望する教員 (非常勤講師を含む)

5. 定員

30 名程度

6. 実行委員

小林 直人 (学長特別補佐、教育企画室長)	中井 俊樹 (教育企画室教授)
仲道 雅輝 (教育企画室講師)	村田 晋也 (教育企画室講師)
竹中 喜一 (教育企画室講師)	浅田 隼平 (能力開発室)

7. 目的

授業の構想・設計・実施・評価に関わる一連の過程に関する学習を通じて、授業に必要な基礎的な知識と技術を身につけます。

8. 目標

- 1) 学生の学習を促すシラバスを書くことができる。
- 2) さまざまな授業方法の特徴を理解し、学習目標に適した授業方法を選択できる。
- 3) 教育評価の原理と種類を理解し、学習目標に適した評価方法を選択できる。
- 4) アクティブラーニングを取り入れた 90 分の授業の計画を作成できる。

9. 研修形態

愛媛大学の LMS (Learning Management System) である Moodle、指定の書籍 (受講者に事前に貸与致します)、オンラインのミーティングツールを活用して実施します。受講上の連絡、研修の教材提示、課題の提出など、研修に関することは基本的に Moodle を通じて行います。

10. 内容

- 1) オリエンテーション (7 月 4 日 (土) 10:00~)
 - ・受講者および講師の紹介
 - ・受講の進め方

以下、2) 以降の内容は、7 月 4 日 (土) ~ 24 日 (金) の期間に各自で取り組んで頂きます。なお、この期間中に、Moodle またはオンラインミーティング (担当: 実行委員の教員) を通じて、授業デザインに関する質問・相談受付の機会を設ける予定です。

- 2) 動画教材の閲覧 (Moodle 上)
 - ・シリーズ・大学の授業を極める 教授法 (10~15 分程度×4 本)
 - ・シリーズ・大学の授業を極める アクティブラーニング (10~15 分程度×4 本)
- 3) 書籍による学習 (受講者に該当書籍を貸与します。受講前にお手元にお届けします)

- ・シリーズ大学の教授法 1 「授業設計」 (玉川大学出版部) 1～6 章 (pp.2-70)
- ・シリーズ大学の教授法 4 「学習評価」 (玉川大学出版部) 1～5 章、13 章 (pp.2-57、pp.150-157)
- 4) 2) および 3) の内容に関する確認テスト (Moodle 上)
- 5) ご自身の授業シラバスと 1 回分の授業案の提出 (Moodle 上)
 - 提出した課題に対して受講者同士でコメント (Moodle 上でピア・レビュー)
- 6) 5) のコメントを踏まえ、シラバスと授業案をブラッシュアップしたものを提出 (Moodle 上)

11. お申し込み・問い合わせ

以下の連絡先まで【6月4日(木)まで】にお申し込みください。

愛媛大学教育企画室 E-mail: opar@stu.ehime-u.ac.jp (担当 竹中・仲道)

12. その他

- 1) 参加費は無料です。オリエンテーションは、オンラインで7月4日(土)10:00から行います。原則参加をお願いします。どうしても参加できない場合は、個別に上記問い合わせ先までご連絡ください。
- 2) 修了証書は、全ての課題を提出された方のみ授与されますので、あらかじめご了承ください。
- 3) お申し込み後、事前アンケートをお願いしますのでご協力お願いいたします。

※ 動画教材「シリーズ・大学の授業を極める」について

この教材は、関西地区 FD 連絡協議会により作成された YouTube 上のオンライン教材です。関西地区 FD 連絡協議会は、加盟校間の FD に関するネットワーク促進を図る団体で、100 以上の高等教育機関が加盟しています。この教材は、加盟校に限らず非加盟校の FD 教材としても広く活用されており、愛媛大学中井俊樹教授と竹中喜一講師も一部制作しています。

本研修期間に限らず、以下 URL から閲覧可能です。

<https://www.youtube.com/channel/UCiGJogNnrnT0iTg1RYe111A/videos>

※ 書籍「シリーズ 大学の教授法」について

この教材は、玉川大学出版部から発行されている書籍で、大学における教授法の知識と技能を体系的に提示することで、よりよい授業づくりの支援となることをねらいとしたものです。6 冊シリーズ (令和 2 年 4 月現在 5 冊刊行済み) で構成されており、本研修では、そのうち「授業設計」と「学習評価」の 2 冊を取り扱います。愛媛大学中井俊樹教授がシリーズ編者となっています。

プログラム認証申請シート（案）

申請日： 年 月 日

I. 機関名

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）のコア校
 （コア校は、愛媛大学、徳島大学、香川大学、高知大学の4大学のことである）

II. プログラムの基本情報（詳細については、別途添付資料等も可）

(1) 名称

SPOD 新任教員研修（各コア校における研修名は以下の通り）

愛媛大学 授業デザインワークショップ

徳島大学 授業設計ワークショップ

香川大学 よりよい授業のためのFDワークショップ

高知大学 学生の学びを支援する授業準備ワークショップ

(2) 主な対象とねらい

主な対象：SPODに加盟する高等教育機関に採用された教員（希望者も参加可能）

各コア校では、大学の方針に合わせて対象者の定義を詳細に定めている。

ねらい：授業を担当するために必要となる基礎的な知識とスキルを修得する。具体的には、授業の構想・設計・実施・評価に関わる一連の過程について、参加者同士のグループワークを通して体験し、教育の質向上のためのコミュニティ形成につなげる。

(3) プログラムの概要

添付資料参照

(4) 担当部局の構成、学内位置づけ

コア校に設置されている、大学教育改革を推進・支援する全学組織（以下、大学教育研究センターとよぶ）が中心となり、企画・運営を行う。具体的には、愛媛大学では教育・学生支援機構教育企画室、徳島大学では高等教育研究センター、香川大学では大学教育基盤センター、高知大学では大学教育創造センターである。

これらの組織は、学内の教学マネジメントに関わる提案、支援を担う組織であり、全学的にFDを推進するための体制を持ち、大学の教育政策と連動したFD及び教学IR等の取組を実施している。

III. 認証の観点（FDプログラムについての貴学の基本的な考え方と位置づけ）

0. 貴学にとって、当該のFDプログラムが必要である背景や文脈はどのようなものですか。

SPODは、学生の豊かな学びと成長を支援する、実践的力量をもった「高等教育のプロフェッショナル」を四国から輩出することを目指している。四国地区の高等教育機関は、各県に総合大学である国立大学が1校（各コア校）存在し、中小規模の国公立大学及び国立高専が複数存在している。すべての高等教育機関がFD及びSDを実施するために必要な資源を有しているとは言い難く、四国地区全体、または各県において連携してFD及びSDに取組むことで、四国地区の高等教育機関全体の教育力向上に繋げることができる。2020年4月現在、SPODに34の高等教育機関（学部のみ加盟を含む）が加盟しており、各県のコア校が中心となり、連携して教職員の能力開発に取り組んでいる。

SPOD 新任教員研修は、四国地区の高等教育機関に赴任した教員を主な対象とし、授業を実施する上で必要となる最低限の教授能力の育成を目的としている。また、本研修において教員同士の教育に関するコミュニティづくりも支援し、教育力向上につながるFDプログラムの情報提供を行うことで、高等教育機関の教員として自律的に自らの教育力向上に取組むことができるようになることを目指している。

また、各コア校においてもSPOD 新任教員研修は大学が求める教員の教育力を保証するための重要な研修として位置づけており、各大学に採用された新任教員を対象としたプログラムの1

つに組み込まれている。

1. 貴学のFDプログラムの基本的理念はどのようなものでしょうか。

SPODにおけるFDは、教育・学習効果を最大限に高めることを目指した、1) 授業改善、2) カリキュラム改善、3) 組織整備・改革、への組織的な取組の総称と定義している。大学設置基準が定める定義より広くFDを捉え、国立教育政策研究所が開発したFDマップを利用し、対象、内容、到達目標等に応じて、プログラムを体系的に整理している。

また、各コア校においてもFDの定義、FDマップを定める大学もあり、SPODに準じた理念のもと、大学の教学マネジメントを支援するための重要な取組の1つとして定めている。

2. プログラムの妥当性・正当性はどのようになっていますか。

→「JAED基準枠組」を用いたチェック表への記入もお願いします。

SPOD新任教員研修は「新任教員研修のための基準枠組」をもとにプログラムが構成されており、毎年基準枠組みとの整合性を確認している。

また、SPODコア運営協議会において、実施要項及びプログラム、参加者アンケートの結果を共有し、各校の研修担当者間でプログラム内容、成果や課題の共有を行い、お互いに良い取り組みについて取り入れている。

3. プログラムおよび学習成果の評価のプロセスが、参加者にとって、目指す教育者像への成長を促すものとなっていますか。

SPOD新任教員研修は、授業運営に必要な知識やスキルを修得し、担当する授業において実践できるようになることを目的としている。そのため、研修が知識伝達のみにならないように、各セッションでは理論的な解説と参加者同士のグループワークを取り入れ、修得した内容を踏まえて、参加者全員が模擬授業、授業検討を行うなど、実践的な内容で構成されている。事前課題が課される研修もある。

また、各コア校では対象者は新任教員研修プログラム（2日間の研修）を単独で提供するのではなく、他のFDプログラムも組み合わせ、教育力の向上（目指す教育者像への成長）につながる研修を体系的に受講するための体制を整えている。具体的には、愛媛大学はテニユア教員育成制度（3年間で100時間の研修受講義務）、徳島大学は教育力開発コース（3年以内に継続した研修の受講義務）、香川大学は新任教員研修プログラム（2年間で40時間の研修受講義務）、高知大学は新任教員研修プログラム（3年間で複数の研修受講義務）である。

4. 参加者の学習成果の評価の妥当性を保証する方法にはどのようなものがありますか。（合・不合格など成果を評価している場合、外部評価等の方法や、評価結果への不服申し立ての機会等）

研修はグループワークやペアワークを中心に構成されており、参加者間でのピア評価、研修スタッフによる確認及びアドバイスを行っている。また、模擬授業では、参加者、研修スタッフ、FD委員などを交えた授業検討会を行い、相互評価を行っている。研修終了時には、研修全体を振り返りながら自己評価を行い、全日程を受講した参加者に修了証を発行している。

5. プログラム遂行のために、どのようなリソースや体制が確保されていますか。

実施体制：各コア校における大学教育研究センターが研修を開催する。各コア校の教育担当理事が参加及び挨拶や講評を行い、当該組織に所属する専任のFD担当者が講師を務めている。研修はSPOD加盟校に開放されている。

財源：各コア校において確保された財源をもとに実施している。

学習環境：アクティブラーニングを実施することができる教室を活用している。また、合宿または通いの連続する2日間で実施することで、知識の習得と修得した内容を実践するための時間が確保されており、研修に集中することができる。

6. プログラムの質や意義を、どのように評価し保証（改善）しますか。

研修の参加者を対象にアンケート調査を実施し、結果をSPODコア会議で共有し、成果や課題について議論を行うことでプログラムの評価・改善につなげている。また、SPOD-FD専門部会において、2010年度～2012年度のSPOD新任教員研修の受講者を対象に、ある程度期間が経過した後にフォローアップアンケートを実施し、効果検証を実施している。

また、各コア校においても個別のプログラム評価・改善のための取組を行っている。愛媛大学では、テニユア教員育成制度の修了後1年以上が経過した時点で、受講したFDに関する有意義度を調査し、改善につなげている。徳島大学では、2015年度～2018年度の新任教員研修の受講者を対象としたフォローアップアンケートを実施し、日常の教育活動における取組みを確認している。高知大学では、年度末に当該年度の新任教員研修プログラム受講者を対象としたアンケートを実施し、一定期間を経た後の研修効果を検証している。

IV. 添付資料

SPOD新任教員研修の実施要項（4校）
SPOD新任教員研修のプログラム（4校）
SPOD新任教員研修のアンケート結果（4校）
SPODにおける新任教員研修の効果（リーフレット）

SPODホームページ
<https://www.spod.ehime-u.ac.jp/>

愛媛大学のFDの定義、FDマップ
<https://www.ehime-u.ac.jp/overview/sdfd/>
https://web.opar.ehime-u.ac.jp/about/teacher_ability/

愛媛大学テニユア教員育成制度
<http://ts.adm.ehime-u.ac.jp/>

徳島大学のFDの定義・実施体制
<https://www.tokushima-u.ac.jp/highedu/reform/fd/docs/2015112700180.html>

<必要なサイトがあれば追加してください>